

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### 新規受託項目

- [30298] 特異的IgE:Ara h 2(ピーナッツ由来)

#### 受託開始日

- 平成26年8月2日(土)

## 特異的IgE：Ara h 2（ピーナッツ由来）

ピーナッツ（落花生）は重篤な症状を起こすアレルゲンの一つとして、食品衛生法上表示が義務付けられている食物です。重篤なアナフィラキシーショックを起こすことがあり、食物アレルギーの中では死亡例も報告されています。

ピーナッツアレルギーの検査には通常、完全抽出物による粗製抗原を用いた特異的IgE検査が用いられますが近年、ピーナッツのアレルゲンはAra h 1,2,3,8,9などのいくつかのコンポーネントにより構成されていることが分かってきました。この中の1,2,3に対する特異的IgE抗体の存在が真のピーナッツアレルギーとされ、重篤な反応を起こすリスクが高いと考えられています。この中でAra h 1はピーナッツの主要なアレルゲン物質で強いアレルギー活性を持ち、高濃度NaClの存在下などでさらに活性が増強されます。また、Ara h 2はそれ自体も強いアレルギー活性がありますが、 $\alpha$ -アミラーゼ／トリプシンインヒビター活性を有し、高温で処理されることによりトリプシンインヒビター活性がさらに数倍増強されるため、Ara h 1の消化を阻害し、さらにアレルギー活性を高めます。ピーナッツをボイルして食することが多い中国などと比較し、ローストなどの高温処理して摂取することが多い欧米で重篤例が多いのはこのためと考えられています。さらにAra h 2は即時型ピーナッツアレルギー（IM型）に対して陽性率が高く、ピーナッツ摂取によるアレルギー症状の誘発リスクを持つ可能性のある患者様を高い確率で選別することが可能となりQOLの向上が期待されます。

通常行われているピーナッツ特異IgE抗体検査は、ピーナッツアレルギー患者でなくとも陽性となることがあり、ピーナッツ除去が不必要なケースもあると考えられています。

また、アレルギー原因食物の確定に用いる食物経口負荷試験（OFC）は、前述のように重篤な症状を起こすことがあるため、アナフィラキシーの既往がある場合などは原則として推奨されません。

海外ではピーナッツ特異的IgEとAra h 2検査を併用することにより、危険を伴うOFCの必要性を1/2～2/3に減少させることが可能であるという報告があります。Ara h 2を測定することはピーナッツ負荷試験陽性予測因子の補助診断として有用であり、より正確なピーナッツアレルギーの診断が可能になると考えられます。

### 検査要項

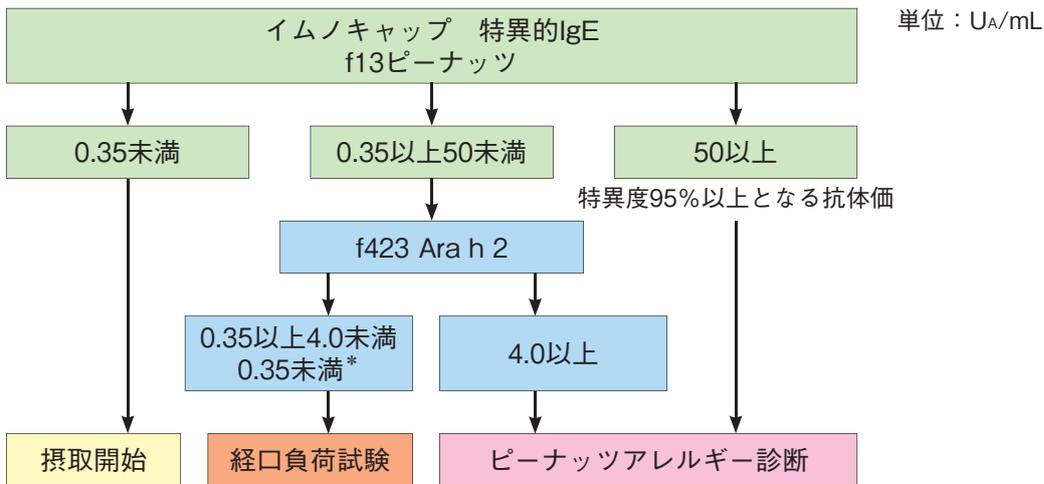
項目コード	30298
検査項目名	特異的IgE：Ara h 2（ピーナッツ由来）
検体量/保存方法	血清 0.3mL / 冷蔵
検査方法	FEIA
基準値	0.34UA/mL 以下
報告形態	濃度 (UA/mL) 判定 (陰性/疑陽性/陽性)※
所要日数	2～3日
検査実施料	110点 ([D015]血漿蛋白免疫学的検査 [11]特異的IgE半定量・定量)
判断料	144点(免疫学的検査判断料)
備考	※他のシングルアレルゲンとは判定基準および報告形態が異なりますので別表をご参照下さい。(クラス報告は行いません。) アレルギー検査専用図形報告書では報告されませんのでご注意下さい。 検査結果が陽性の場合、問診および特異的IgEピーナッツの検査結果と併せて、総合的なご判断をお願いします。  補足) 試薬の添付文書では、「イムノキャップ特異的IgE f13 ピーナッツ」が陽性である者に対して用います。」との記載があります。

## 判定基準

IgE抗体濃度 (U <sub>A</sub> /mL)	判定
0.34以下	陰 性
0.35~3.99	疑陽性
4.00以上	陽 性

## ピーナッツアレルギー判定フロー（目安）

- 特異的IgE：Ara h 2は、特異的IgEピーナッツと組み合わせることで、より正確なピーナッツアレルギーの診断に有用です。



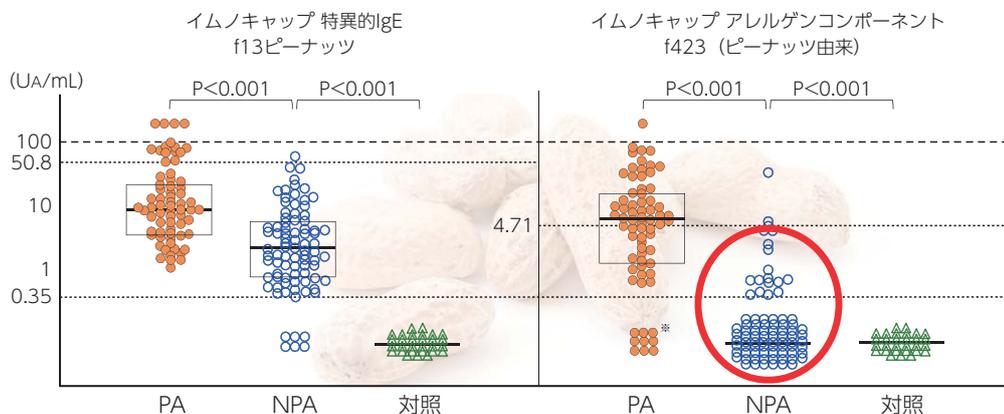
実際の診断には血液検査の結果だけではなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。

- \*ピーナッツアレルギーでもAra h2陰性となる場合があります。  
患者様の状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

ファディア社リーフレットより引用

## ピーナッツおよび Ara h 2 抗体価の分布

- Ara h 2とはピーナッツアレルギーコンポーネントの一つであり、臨床症状発現と強い関係性が報告されています。
- ピーナッツ摂取によるアレルギー症状誘発リスクのある患者さんを高い確率で選別することができます。



PA：ピーナッツ摂取時またはOFCで明らかない即時型アレルギー症状が確認された者  
NPA：ピーナッツアレルギーが疑われたがOFCが陰性であった者  
対 照：ピーナッツ陰性でピーナッツアレルギーが疑われない者

\*少なからずこのような患者さんがいることに注意が必要です

ファディア社リーフレットより引用

## 参考文献

海老澤元宏, 他:日本小児アレルギー学会誌, 27(4), 621~628, 2013.

